

長雨、日照不足に伴う農作物等の被害防止対策について

(農業戦略課)

6月下旬からの梅雨前線の停滞により、各地で大雨による被害がみられるとともに、長雨と日照時間の少ない状態が続いています。气象台によると、今後10日程度は曇りや雨の日が続く予報が出されています。

長雨、日照不足により、一部農作物では生育への影響や病害の発生等が懸念されます。栽培上の留意点に注意して、適期防除を行うなど、栽培管理に努めてください。

1 7月の日照時間と降水量

地点名	日照時間 (単位: 時間)			降水量 (単位: mm)		
	1日~5日 (平年比)	6日~10日 (平年比)	11日~13日 (平年比)	1日~5日 (平年比)	6日~10日 (平年比)	11日~13日 (平年比)
三島	11.0 (57%)	0.8 (4%)	5.4 (44%)	243 (536%)	204 (568%)	28.5 (130%)
静岡	14.5 (70%)	0.2 (1%)	7.5 (56%)	235 (399%)	160 (292%)	33 (107%)
浜松	14.1 (59%)	0.9 (4%)	4.0 (26%)	170 (400%)	187 (510%)	33 (162%)

※気象庁アメダス

2 栽培上の留意点

作 目	内 容
水稲	<p>1 施肥・防除対策</p> <p>(1) 日照不足による軟弱徒長気味の生育が見込まれる場合は、穂肥については葉色、生育診断等に基づき適期適量の施用を徹底する。特に、今後の気象の見通しやいもち病の発生状況に十分留意し、窒素質肥料の過剰施用を避ける。</p> <p>(2) 日照不足傾向が見込まれる場合は、葉いもちの適期防除に努めることとし、さらに上位葉への進展がみられる場合には、出穂期を的確に把握して、穂ばらみ期(出穂直前)と穂揃期の防除を確実に実施する。</p> <p>2 浸水、冠水被害を受けたほ場では、速やかな排水に努め、特に冠水した場合は、少なくとも葉先だけでも水面に出すように努める。また、排水後は、白葉枯病等の防除に留意する。なお、冠水被害を受けた稲体は水分調節、肥料吸収等の機能が低下していることから、田面の過度な乾燥に注意する。</p>
園芸作物	<p>1 長雨・日照不足の条件下では、葉菜類の軟弱・徒長株の発生や、病害の多発が起りやすいので、気象の推移と生育状況に十分留意しつつ、排水対策や病害虫防除対策を徹底する。</p> <p>2 特に果樹については、着果状況に応じた的確な摘果を実施するとともに、徒長枝や密生枝のせん定を実施し、寡照下における受光の確保に留意する。</p>

病虫害防除 全般	<ol style="list-style-type: none">1 日照不足や長雨が続くことにより、農作物に病害が発生しやすくなることから、今後の天候の推移に十分に注意するとともに、ほ場の観察を定期的に行い、農林水産省や都道府県病虫害防除所等から発表される病虫害発生予察情報や技術情報等に基づき、適時適期な防除に努める。2 農薬を使用する際には、ラベルに記載された使用基準を遵守し、散布した作物以外に飛散しないよう対策を講ずる。
-------------	---

※参考：農林水産省生産局「日照不足及び長雨並びに夏台風の接近及び通過に伴う農作物等の被害の防止に向けた技術指導の徹底について」平成 27 年 7 月 13 日通知